

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200302		
法人名	特定非営利活動法人ソーシャル・ネットワーク		
事業所名	グループホームぬくもりの里かもの		
所在地	岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣2239番地		
自己評価作成日	平成26年8月15日	評価結果市町村受理日	平成26年10月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&li_gyosyoCd=2171200302-00&Pf_efCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームぬくもりの里かものでは、田園地帯の中で自然が多く残されており住み良い環境の中に建てられています。それらを一周する散歩コースでは、田植えや収穫を見たり、四季折々の草花を観察して頂くことが出来ます。又、住居ではゆったりとした居室、大きなリビングなど住み易い快適な空間が広がっています。季節に合わせた行事が盛りだくさんです。(花見・夏まつり等)又、年に1回泊旅行に行き、皆さんの楽しみひとつになっています。職員のほとんどが、「認知症サポーター養成講座」を受講し、オレンジリングを持っており、認知症介護の専門性を大いに発揮しています。医療面では、月2回の往診を受けて頂き、健康管理・口腔衛生・服薬管理を行っています。各棟に看護師を配置し、急病などの場合も迅速に対応しています。各専門医療院と連携し、万が一に備えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が地域で安心して暮らせるよう、近隣住民と祭りに参加したり、野菜づくりやボランティアを受け入れ交流し、つながりを深めている。思い出つくりの為に、一泊旅行・日帰り旅行を計画し、日頃の外出と違う気分転換で楽しみの一つとしている。家族会や毎月の便りで、事業所の取り組みや利用者の近況を報告し、意見や要望を聞いて事業所の運営に反映させている。職員は認知症の理解を深める研修を重ね日常の支援に活かしている。応急手当も勉強会で習得している。感染症予防などの衛生面では、日頃から事業所内の清掃に努めている。穏やかに、ゆっくり過ごしてもらい、その人らしい暮らしを支援する、理念の実現に全職員で取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のカンファレンスにおいて、法人理念・介護理念を唱和し、理念の共有をしています。また、「穏やかに ゆっくりと」というモットーを掲げ、常に意識し介護を行っています。	理念を共有し、利用者と向き合い、誠意ある介護ができているかを、会議などで振り返りながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への積極的な参加と、園児・地域ボランティアの積極的な受け入れをしている。	事業所は所在自治会と、隣接の自治会の両方に加入し、相互につながりを深めている。畑を借り住民とサツマイモを作ったり、春祭りに参加したり、野菜をいただいたりしている。隣接住民が田楽を持ってきてくれて、一緒にパーティーを開き交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資格取得時の実習・市内の中学生の職業体験などの受け入れを行っています。又、市が実施した認知症高齢者の探索訓練において職員が高齢者のモデルとして参加しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夜間に運営推進会議を開催し、大半の方の参加を頂いています。参加者の方や、知人の経験談等を話して頂いており、当施設への取り組みに活かしています。	二つの自治会代表の参加を得て開催している。警察署にも呼びかけ次回より参加を予定している。参加者の認知症の理解がなくて困ったと言う意見から、事業所として、認知症の理解を深める取り組みを考えている。しかし、考えが実現に至っていない。	市の広報誌による啓発に留まらず、事業所独自の取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いており、情報交換を密に取り、連携を心掛けています。	市のネット会議に参加し情報を得ながら、事業所の実情報告や話し合う機会を多く作っている。また、複合型サービスの新設について、書類や不明な点の相談に出向き、指導を受けながら協力関係に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する外部研修に参加し、内部の会議等で話し合っている。身体拘束をしないケアを常に確認しあい、実践している。	身体拘束ゼロの意識確認を常にしている。ことばの拘束も確認しあい、声のかけ方、音調についてもその都度注意をして、利用者の尊厳を損ねない対応に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については外部研修を受講し、内部会議にて話し合い、虐待についての共通の認識を持っている。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての外部研修に参加できる機会があれば、活用し支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用者・家族の方が不明な点、疑問点があれば、十分時間を取り説明をし、理解して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には時間を頂き、ご意見・ご要望をお聞きしている。出た意見については、すぐに検討し対応している。	家族の訪問時に尋ねている。個別な要望にも丁寧に答えている。日頃、会話のむずかしい利用者の一言を、職員で解明して家族に伝え意見を聞いている。家族会の意見やアンケートなどから情報を得て運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く機会を作り、その都度話をしている。休憩時間の見直しが行われた。	夜勤体制・休憩時間・季節の行事など、職員の意見は主任が窓口となり運営会議に提案している。事業所の運営会議では職員の意見を討議し、人事・運営の調整を見直し職員の意見を尊重し反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職や職員の個々の実績や努力・勤務状況などを把握し、それを基に考課表により問題点をあげ各自が向上心を持てるように、職場環境や条件の整備に努め、楽しく働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理職や職員に対して、外部研修・社内研修を行っている。又、職員の資格取得については積極的にスキルアップを図れるようにバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設相互訪問を通じ、情報交換を図っている。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し、寄り添うケアに努め、職員間で情報共有し、利用者が安心して生活出来るような関係作りを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや要望などを時間をかけてじっくりと聞き取れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合い、その時に必要な支援を見極め、適切なサービス利用に繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の中で、レクや物作りの時間を作り、共に話し合い、関わりを持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見を聞きながら、共に支えあう気持ちを持って利用者を支援していく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの美容院に行ったり、墓参りなどに外出。外出時に家族や友人と外食したりしている。	入居時に家族から、馴染みの人など細かく情報を得ている。家族に利用者の近況を便りで知らせ、友人の訪問のお願いや、生家への訪問・墓参りを家族の協力を得て出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の合う利用者同士の関係を見極め、良好な関係が保てるように支援している。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた後でも面会などさせて頂いています。又、施設側とも連携し、より良いケアが行えるように支援させて頂いています。看取りをさせて頂いたご家族にはお見送り・七七日には献花させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんとの会話から趣味や特技を把握し、そこを充実できるように取り組みをしている。	利用者一人ひとりに自分のことを話してもらう時間を作り、編み物が好きだった、生花の先生だったなど、自分の趣味・特技・暮らしぶりを紹介してもらっている。職員は、利用者の話から意向を引き出し、把握ができる工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には、利用しているサービス提供の場に出向き、サービス利用の経過把握や、生活歴などの把握に努めています。入所後は、カンファレンスにて情報の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の過ごし方を介護記録に記載し現状の把握に努めている。変化があれば申し送りし、特に注意するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限りご家族の同席の担当者会議の開催を心掛けている。それを基にサービス計画書を作成している。担当職員により月に1回のモニタリングを行っている。	毎月、モニタリング前に、家族の意向を訪問時に聞いている。申し送りノートを確認し、担当職員の意見を取り入れ会議で検討している。協力医からは、往診時や毎月送られてくる状況提供表を見ながら計画をたてている。状況変化に合わせて見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録に記入し、職員間で情報を共有し、より良いケアに繋がれるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の要望について柔軟な支援をするように努めている。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに畑をお借りし、野菜作りを通じ地域の方々との繋がりを持ち、心豊かな暮らしを送るように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医・協力医は本人、家族の意向に合わせている。他科受診は、家族に依頼しており、本人の状態等は常にご家族と共有し、連携に努めている。	多くの利用者は入居時に協力医へ変更している。かかりつけ医への受診は家族と看護師が同行して状況説明と医師から指示を受けている。協力医とは夜間連携をしている。歯科医の訪問診療をお願いして嚥下困難な利用者の指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニット毎に看護師を配置し、医療的な事への対応を全面的にバックアップする体制にあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療を受けられるように、ご家族・病院と良好な関係が保てるように努めています。又、病院の相談員との連携を密に取って、情報収集に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化に伴い、その都度、医師・家族・看護師等と話し合いながら対応している。看取りも行っている。救急対応は、消防署や看護師による指導にて職員が全員研修を受けています。	入居時に事業所の方針を説明し、特別養護老人ホームの申し込みを話している。利用者の体調や状態の変化の時点で、家族と医師などと相談を重ねながら対応している。家族が宿泊して看取った事例がある。職員は緊急対応など習得に努めている。夜間連絡マニュアルを明示している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、応急手当や初期対応の講習を行い、実践力を身につけるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災を想定した避難訓練を定期的に行っています。近隣の連絡網を作り地域との協力体制が図られており、災害時の避難場所としての受け入れを受託している。	地域住民の協力を得て定期的に夜間想定も含め、訓練を実施している。運営推進会議で居室前に車椅子の可否マークが必要との提案があり対応している。地域代表への連絡網を作り協力体制を整えている。屋外での放火の想定もして訓練している。	

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、トイレ前や居室入口にカーテンを設置し、外から見えないようにしている。人生の先輩として尊重し、言葉かけや対応をしている。	「声かけは穏やかにして、命令調で言わない」など会議で話し合っている。入室にはノックし、着替えも必ずドアを閉めるなど羞恥心に配慮している。トイレの入り口にドアとカーテンが二重にあるが、利用者はカーテンを使用することの方が多い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の色々な場面で自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、出来る限り希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えなど、ご自分で選んで頂けるように支援し、隔月の出張床屋にて散髪をしてもらっています。又、家族の協力により馴染みの美容院に行かれる方もおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年間の献立表を立ててはいますが、誕生日や行事に合わせてその都度メニューの変更をしたり、外出時に外食したりすることもあります。配膳や片づけ等一緒にして頂くこともあります。	職員が頂き物の野菜や季節の食材を使用して調理している。当番利用者の献立の説明と「頂きます」の声かけで始まり「ご馳走様でした」で終わる習慣にしている。職員もテーブルを共にし、急かさず会話を楽しみながら食事をすすめている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや水分補給、毎食後に摂取量を記入し、個人個人の栄養補給の支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。ケア困難な方には職員が歯磨きティッシュを使用し、口腔衛生に努めています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表から利用者の排泄パターンを把握している。	日中は全員布パンツとパットを使用し、トイレでの排泄を支援している。利用者の状態に合わせて二人介助で対応したり、個別に声かけしている。外出前や食事前には、全員に声かけすることもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、十分な水分補給、看護師による排便コントロールを行っています。又、排泄チェック表から、その人それぞれの排泄パターンに応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度者の方も、2人介助で、可能な限り浴槽に入って頂けるように支援しています。必要と判断した利用者さんに対しては足浴・マッサージを行っています。	利用者の体調や希望に合わせて入浴している。来訪者時間や外出予定があれば入浴順位を優先している。季節に合わせて菖蒲湯などで、話題づくりを心がけ、ゆっくりできる声かけをしている。足にむくみのある利用者には足浴やマッサージ機で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を考慮し、午前や午後に休息の時間を設けています。足背や下肢に浮腫がある方には足浴・マッサージを行い、足挙上にて改善に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に薬の説明書が綴っており、薬の事が一目でわかるようになっています。服薬時には、名前・日付などを利用者と一緒に声に出して確認し、誤薬のないように細心の注意を払っています。内科と心療内科の薬は一目で区別がつくように工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人それぞれに合った役割を見付け、支援を行っています。又、外出等で気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出掛けたり、花の世話したり、戸外に出る機会を作っている。喫茶店や町内の夏祭りに出掛けています。又、誕生月には担当者との外出でご希望の場所へお連れしています。年に1回1泊旅行に行く事を皆さん楽しみにされています。	車椅子の人も一緒に、歌い、草花を摘みながら、農道を散歩している。誕生日には、職員と希望の場所に出掛けている。年間行事として、温泉へ一泊旅行に出かけているが、参加できない利用者には日帰り旅行にと、利用者に合わせて楽しみを計画し実施している。	

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、入所の方でお金を持っている方がおられない為、支援はしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	四季の手紙は定期的を書いて頂けるように支援しています。又、電話を希望される方には取次などの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には利用者との共同作業で作成した作品が飾られおり、季節感を表現している。廊下にはベンチ、リビングにはソファを配置し寛げるように配慮している。	一泊旅行の写真・利用者の共同作品を廊下一杯に飾っている。庭に咲く、赤・青の朝顔が居間から眺められ季節を感じられる。和室のコーナーで家族とくつろいだり、テレビを見たり、洗濯物を置んだり、昼寝をしたりするなど、居心地よく過ごせるような工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには2人掛けや3人掛けソファが置かれ、寛ぎの空間となっている。又、廊下のベンチは憩いの場となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望でテレビや椅子、筆筒などの調度品を置いています。居室で本や新聞を読む方もおられ、自分の居室も寛ぎの空間になっています。	親族の顔写真が名前入りで飾られている。家族が新築した自宅の玄関・仏間などを写した写真を持参している。整理タンス、好みの椅子を置いている。個別の希望にあわせ置の居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっており、トイレ・廊下には手すりが設置されていて安全・安心で自由に自立した生活が送れるようになっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200302		
法人名	特定非営利活動法人ソーシャル・ネットワーク		
事業所名	グループホームぬくもりの里かもの		
所在地	岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣2239番地		
自己評価作成日	平成26年8月15日	評価結果市町村受理日	平成26年10月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2171200302-00&Pr_efCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年	9月	12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のカンファレンスにおいて、法人理念及び介護理念を唱和し理念を共有、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春祭りや夏祭り等地域の行事に積極的に参加し地域との交流をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資格取得時の実習や中学生の職業体験等の受け入れを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域包括支援センター、入所者家族の代表、民生委員、自治会長等の意見をサービス向上に繋げています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時行政と連絡を取り合い事業所の実情及びケアサービスの取り組みを伝え協力関係に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修を受講し身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関の施錠を外し中庭を自由開放しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を受講し虐待防止に努めています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を受講しそれらを活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び解約時に利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見や要望を伺っており又、家族会などで出た意見についてもすぐに検討し対応しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のカンファレンスにおいて職員の意見や提案を運営に反映しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員に対して、法人内外の研修を行い資格取得についても積極的に進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問を通じ取り組みをしています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の要望、不安に傾聴し職員間において情報の共有をし安心して生活できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い要望に傾聴し信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話し合い必要な支援を見極め対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いをして頂いたり、物作りを一緒にやったり、共に過ごし支え合うようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを取り、意見を聞きながら共に支えていく関係を築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や家族等に年賀状や暑中見舞いなどのお便りを出したり手紙のやり取りなどを支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者同士が支え合えるような関係支援に努めています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所された後でも面会させて頂き関係を大切にして断ち切らないように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を聞き取れるように話を聞く時間を設けています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には利用しているサービス提供の場に出向き、サービス利用の経過の把握や家族への聞き取りにより生活歴を把握し情報の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りにより現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限り家族同席のサービス担当者会議の開催を心掛け担当職員の月1回のモニタリングを基にサービス計画書を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記入し職員間で情報を共有し実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望について柔軟な支援をするように努めています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに畑をお借りし野菜作りをしたり、施設の夏祭りに地域の方々に参加して頂き、地域との繋がりを持ち心豊かな暮らしを送れるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望を大切にし協力医とは24時間いつでも指示が仰げる関係にあります。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニット毎に看護師を配置し、情報を共有し適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、安心して治療を受けられるようにご家族、病院と良好な関係が保てるように努めています。又、病院の相談員との情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた方針については、マニュアルが整備されており、家族とは事前に話し合いを行い、看取りも行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当や初期対応の訓練を行い実践力を身に付けるように努力しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難誘導訓練を行っています。消防署への通報訓練は年4回行っています。又、自治会やご近所お助け隊の連絡網を作り地域との協力体制を築いています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、トイレ前や居室入口にカーテンを設置し外から見えないようにしています。又、プライドを傷つけないよう声掛けをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間やレクの時間など色々な場面で自己決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に出来る限り希望に添った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔後のお顔のお手入れをされたり、家族の協力の下馴染みの美容院に行かれる方もおられます。入浴後の着替えなどご自分で選んで頂けるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、消毒、お膳拭きなど役割を持って頂いています。食事は利用者と職員と一緒に食べて片づけをしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分補給、毎食後に摂取量を記入し、個々の栄養補給の支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアを行っています。歯間ブラシを使用しておられる方もいます。ケアが困難な方には職員が歯磨きティッシュやガーゼを使用し、口腔衛生に努めています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を活用して、トイレでの排泄を支援しています。自覚なく何度も行かれる方には声掛けさせて頂いています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、十分な水分補給、看護師による排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴順を決めず、その日の体調や気分に応じて入浴して頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を考慮し、午前や午後に休息の時間を設けています。足背や下肢に浮腫がある方には足浴マッサージを行い、足挙上にて改善に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に薬の説明書が綴っており、薬のことが一目で分かるようになっている。服薬時には、名前・日付などを利用者と一緒に声に出して確認し、誤薬の無いように細心の注意を払っています。内科と心療内科の薬は一目で区別がつくようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人それぞれに合った役割を見付け、支援を行っています。又、外出等で気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入所者全員で一緒に散歩に出掛けたりします。町内の運動会や夏祭りに参加したり、喫茶店にお出掛けしたりしています。又、誕生日には担当者との個別の外出で希望の場所へお連れしています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、入所の方でお金を持っている方がおられない為支援はしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	四季の手紙は定期的を書いて頂けるように、葉書の準備をしたり、隣に着き、書くことが出来るように声掛けをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや、浴室入り口にはカーテンを設置し人目に触れないように配慮しています。廊下には、利用者との共同作業で作成した作品が飾られており、華やかな雰囲気作りをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには3人掛けソファが置かれ、廊下にはベンチが設置され、それぞれ寛ぎの空間となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望で畳を部分敷きにしたたり、鏡台や椅子、筆筒などの調度品を置いています。居室で本や新聞を読まれる方もおられます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっており、トイレ・廊下には手すりが設置されていて安全・安心で自由に自立した生活が送れるようになっています。		